

Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

私たちは、「武力で平和はつくれぬ」という信念に基づき、安全保障法制の廃止を求め、憲法改悪に反対します。

特集

共生

東京YWCA板橋センターでは、障がいや、発達に遅れ・偏りがある子どもたちを支援する東京YWCAキッズガーデンを開設しています。2017年4月、地域の障がい児支援の拠点としての機能を持つ「児童発達支援センター」として新たにスタートしました。

“地域の期待にこたえ、新たな船出”

改修工事を終えた東京YWCA板橋センターでは、お昼になると給食のいい匂いが溢れます。東京YWCAキッズガーデンが児童発達支援センターとなり給食も始まりました。偏食が減ってくる等メリットが出てきた一方、1ヶ月のうち1週間はお弁当週にして、家族と共に食育に取り組んでいます。

「家族とともに」「子どもとともに」「地域の中で」を三本柱に、3～6歳児の小集団療育、2歳児の親子通園、年長児の個別療育、ペアレントトレーニング等、日々行う支援が、一人ひとりの尊厳を重んじるYWCAの理念に繋がっています。そして今、これまで行ってきた個別支援計画に基づいて行う幼児から学齢児へのサービスに加え、障がい児相談支援事業や保育園・学校等との更なる連

携強化など、児童発達支援の地域拠点として、新たな役割が加わりました。

板橋センター 50年の歴史で大切にしてきたこと

東京YWCA板橋センターは、1965年に東京YWCA60周年記念事業の一つとして、地元の方から提供(のちに寄付)された現在の土地に開設されました。東京YWCA会員を中心に時代や地域のニーズに合わせ、子ども会活動や子育て支援をする中で、発達に支援を要する子どもたちの療育の必要性を痛感し、療育事業を開始しました。東京YWCAキッズガーデンの特徴は、専門的な療育と共に、板橋センターに集う会員やボランティアなど様々な年代・背景をもつ人たちの活動があることです。

それらの人々のつながりから「障がい児『きょうだいの会』」などの活動も生まれ、事業全体がゆたかに発展してきました。

キッズガーデンの課題と未来 誰もがハッピーになれるように

これからも常に一人ひとりをかけがえない存在として向き合うことを、職員も家族もボランティアもそして子ども同士も当たり前に行えるような東京YWCAキッズガーデンを目指したいと私たちは思っています。行政主導の児童発達支援センターがほとんどの中で、数少ない民設民営施設のひとつです。その独自性を活かし、多くの方々の祈りと願いに支えられて地域のために貢献していきます。



ライフステージに沿った切れ目ない支援

幼児～学齢期を東京YWCAキッズガーデンが、社会人をNPO法人東京YWCA福祉会が、ライフステージに沿った支援を実現しています



2歳児～5歳児

児童発達支援センター(療育)

ABA(応用行動分析)の手法をベースに子どもたちの良いところに着目し、適切な行動を増やす支援を徹底して行います。同時に家族へのサポート、保育園・幼稚園や学校、他機関との連携を進めるために、職員研修、チーム形成がかなめです。

障がい児相談支援

療育の中身を熟知した相談支援が強み。広い視野で子どもの生活の今をとらえ、家族と共に将来を見据えながら支援計画を立て、子どもの成長に伴走します。特に幼児期のプラン作成は難しいとされていますが、これまでの蓄積によって力を発揮しています。

子どもの成長を実感する 家族にとっても大事な場所

👤 キッズガーデン保護者/
田口奈津子さん

模倣が苦手だった息子ですが、集団での生活ときめ細かい療育のおかげで、想像以上の成長を遂げている最中です。私は親の会の役員会を、上の娘はきょうだいプログラムを毎回楽しみにしており、我が家にとってキッズガーデンはなくてはならない存在です。



療育の帰りに親子でツーショット

東京YWCAキッズガーデン 15周年おめでとうございます

🏢 板橋区福祉部障がい者福祉課長/
星野邦彦さん

板橋の地で、障がいや、発達に遅れ・偏りがある子どもや家族の支援に、療育の専門家があたる、数少ない施設として長きにわたり活躍いただいていること、大変感謝しております。今年度からは区内2か所目の「児童発達支援センター」となりました。障がいのある児童が通所し、日常生活の指導を始めとした様々な適応訓練等や保育園等との連携についても、活動を広げていただき、重ねて御礼申し上げます。これからもご活躍を期待しています。



小学生～高校生

放課後等デイサービス

毎週土曜日に、調理、アート、外食、ボウリング等、とっておきの体験になるような療育のプログラムを提供しています。



社会人

NPO法人 東京YWCA福祉会

大人になって地域で自立した生活を送る力をつけていけるよう、就労継続支援B型事業とグループホームでの支援を行っています。



毎年ボランティアを中心に開催するバザーには、地域から多くの方が来場されます。今年は11/26(日)です。

ご関心のある方はどうぞお問い合わせください

東京YWCA
キッズガーデン

☎ 03-5914-1854 ✉ itabashi@tokyo.ywca.or.jp

🏠 http://www.tokyo.ywca.or.jp/child/kids_garden/



読むことが困難な人々への支援事業(DAISY)を開始しました

長年にわたる音訳ボランティアの活動が継承され、さらに発展します

今年度、社会福祉事業部では、マルチメディアデージーという新しい方法により、視覚障がい者への音声による支援に加え、発達障がい児・者、知的障がい児・者、高齢者など、通常の紙の書籍では読書するのに困難のあるさまざまな方々に向けた読書権・学習権の支援を開始します。読み手の皆さんの社会生活が、より豊かに主体的に営まれるよう、個々のニーズに沿った支援を目指します。

同時に、音訳活動の基礎となる「朗読の基本」やマルチメディアデージー化技術を習得したボランティア層の拡大をはかる講習会や勉強会も急ピッチで進めています。



ボランティアが読み上げた文章が黄色く反転し、音声と画像が同期することで読み手の理解を助けます。製作物は学校・図書館に提供したり個別のオフラインに伝えます

肢体不自由者水泳「あひるの会」60周年交流会

“スポーツをする喜びをすべての人に” 今も受け継がれる精神と活動

「あひるの会」は肢体不自由者が水泳を通して喜びと自信を得ることを目的に、ボランティアがマンツーマンで水泳を指導する活動です。5月13日の60周年を祝う交流会に、当時小学生だったメンバーや80代の元ボランティアなど51名が楽しく集いました。開設当初アメリカの浮き具を参考に手作りした布製浮き具や写真を囲み、リレートークではメンバー・ボランティア・スタッフが当時の苦労や意気込みなどを語りました。懐かしい先輩方の生の声に、後輩たちには改めて歴史を学ぶ貴重な機会ともなりました。



ボランティア手作りのあひる型クッキーでティータイム

DVサバイバーと協働する支援者トレーニング in 秋田

DVやサバイバーについて理解を深め 相手の視点に立った支援をするために

7月1・2日にDV被害者(サバイバー)を支援する相談員を対象に、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会からの助成を受け、今年度全国4か所で開催するうちの第1回を行いました。定員を超える申し込みがあり、参加した受講者は、サバイバーの心理的不安、孤立感や無力感などを理解することができ、日頃の相談業務に活かしたいと述べていました。2回以降は、大阪、静岡、熊本で実施します。前号の特集に反響をいただき、個人の皆様からもご寄付を頂戴しております。心より感謝申し上げます。



参加者同士の活発な交流もあり、つながりもできました

● 東日本大震災被災者支援事業 震災から7年を迎えて

6月24日に7回目となる支援バザーと、東京近郊に避難している人のための法律相談を実施しました。また7月末には、ご寄付とバザー収益等により、いわき市の重症心身障がい児(者)と家族の会「スマイルリボン」の3家族12人を東京YWCA野尻キャンプ場ゆかりハウスで実施した一般対象プログラムに招待す

ることができました。天候に恵まれ、ブルーベリー摘みや湖での水遊び、夜は湖畔から信濃町主催の花火大会も眺めました。障がいのある子どももいない子どもも共に楽しい2泊3日の夏休みを過ごし元気に帰福しました。3月には、野尻キャンプ場で実施する一般対象の雪遊びに、福島親子枠をつくり募集予定です。



お友だちとみんなで水遊び

